［書式１］

平成２２年３月３１日

平成２１年度実施　地域ＩＣＴ利活用モデル構築事業　成果報告書

実施団体名　北海道旭川市

事業名称　　地域 ICT を利活用した「健康増進および地域活性」モデルの事業化

１．事業実施概要

① 旭川市，旭川医科大学及び市内医療機関で構成する「旭川地域 ICT 協議会利活用モデル構築事業運営協議会」が，住民が自ら安心をつくり健康に暮らせる環境整備を図るため，パソコンと携帯電話を利用して，日常の健康情報を住民自身が管理し，かつ，利用者の了承を得た保健師などの指導員が当該情報を閲覧しながら保健指導ができるモデルシステム（ウェルネットリンク）を構築・運営する。

② また，当該モデルシステムを利用して，利用者それぞれの状態に合ったライフスタイルを構築するため，「圏域農畜産物を利用した健康食の普及」や「健康保養・観光等の地域産業」との協業を行い地域の活性化を図る。

２．目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
住民説明会やパンフレット等による宣伝活動を行い，年度末までに 10,000 人のシステム利用者数を目指す。	10,000 人	200 人	×	説明会の実施 ポスター，チラシの配布
システム利用者のうち８割以上がサービス内容に満足できるシステム構築を目指す。	1,000 人中 満足度 80%以上	200 人中 2 人からアンケートを回収。2 人とも現サービスに満足。	×	利用者のうち 1,000 人程度を対象にアンケート調査を実施し，満足度評価と課題の洗い出しを行う。

３．達成状況が△又は×の場合はその理由

地域住民への説明会や広告宣伝活動が会員数の獲得に繋がらなかったため。

＜委託業務説明書＞

１　平成２１年度事業実施において明らかとなった課題

旭川市における国民健康保険の特定健診受診率は若年になるほど低下するのに対し、ウェルネットリンクの会員数は 50 歳代に次いで 30 歳代が多いことから、ウェルネットリンクを活用することで健診受診率が低い世代の受診率向上が図れるものと考える。よって、若年層の受診率向上に結び付くようなサービスの実施が今後の課題となる。一方、安全性を高めるためにログイン手順を煩雑にしたことが高齢者の入会を妨げた要因となってしまい、入会後もログインが出来ない等の問い合せが多かったことから、安全性を維持しつつ、ログイン手順を簡素化することが次年度の課題である。

２　自律的・継続的運営の見込み

平成 22 年度から、ウェルネットリンク上でアフィリエイト（成功報酬型広告）収入を得るための仕組みを取り入れる予定である。これにより、自律的かつ継続的な運営が可能となる。扱う広告は、健康関連グッズがメインとなり、第１段は「在宅血液検査キット」であるが、将来的にはウェルネットリンクをアフィリエイト収入で運営していくことを考える予定である。

３　今後の展開方針

平成 21 年度は、地域住民の健康増進に繋がるサービスを重点的に実施してきたが、平成 22 年度からは、旭川市内のみならず地方の医療機関とも連携し、ウェルネットリンクを活用した地域医療連携の実現を目指す。また、健診実施機関の職員にウェルネットリンクの管理者権限を付与し、その機関で受診した健康診断結果をウェルネットリンク管理者が受診者本人に代わって登録できるサービスも開始する。以上のようなサービスを新たに開始することで、会員数のさらなる獲得を図る。

＜実施体制説明書＞

１　実施体制

本モデル事業では、旭川市や旭川圏域の高等教育機関・公設研究所等で形成し、既に様々な活動を実施している「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」に「地域 ICT 利活用推進 WG」を新たに設置し、同部会を本モデル事業の運営母体とする。運営母体は次の団体により構成される。

- 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム　－　地域 ICT 利活用推進 WG
  - 旭川市
  - 旭川医科大学
  - 旭川医科大学病院
  - 医療法人　元生会　森山病院
  - 医療法人社団　慶友会　吉田病院
  - 株式会社　旭川保健医療情報センター

２　各主体の役割

No	名　　称	役　　割
1	旭川市	地域 ICT 利活用推進 WG 運営主体／モデル事業全体管理／普及推進活動主体
2	旭川医科大学	地域 ICT 利活用促進 WG 運営／モデル事業全体管理／モデルシステムの設計・開発・運用保守／各種評価実験の計画・実施
3	旭川医科大学病院	モデルシステム（住民健康管理システム）の運用
4	医療法人　元生会　森山病院	モデルシステム（住民健康管理システム／特定健康指導支援システム）の運用
5	医療法人社団　慶友会　吉田病院	モデルシステム（住民健康管理システム／特定健康指導支援システム）の運用
6	(株)旭川保健医療情報センター	モデルシステム（住民健康管理システム／特定健康指導支援システム）への助言

事業実施進行表

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H22 1 月	2 月	3 月
協議会設立		21 日							
協議会開催		21 日		16 日	25 日				12 日 26 日
システムの設計・構築	→	→	→	→	→				
システム構築に係る競争入札			→	→	→				
システム稼働						→	→	→	→
会員カードの設計・印刷			→	→					
チラシ・ポスターの設計・印刷				→	→				
会員カード・チラシ・ポスター配布					→	→	→	→	→
健康応援サービスの試験運用検討				→	→				
健康応援サービスの試験運用開始						→	→	→	→
健康応援サービスの運用結果整理									→
報告書作成									→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

［１］　「ウェルネットリンク」、http://wellnetlink.asahikawa-med.ac.jp

［２］　プレスリリース、http://www.softbankbb.co.jp/ja/news/press/2009/20091105_01/index.html

概　要

［書式２］

平成２２年３月３１日

平成２１年度実施　地域ＩＣＴ利活用モデル構築事業　システム設計書

実施団体名：旭川市

事業名称：地域 ICT を利活用した「健康増進および地域活性」モデルの事業化

１　概要

住民一人ひとりが自分の健康･医療に関わる情報を自分自身で管理できるインターネットサービス「ウェルネットリンク」を構築し、そこに蓄えられる個人情報を活用しながら住民の健康増進とそれによる医療費の抑制、地域の活性化を実現できる様々な機能を実装した。ログイン時の本人認証については、第三者による「なりすまし」を防止するために携帯電話を認証用の鍵とする本人認証機能を採用した。また、携帯電話を所有しない、もしくは所有していても使用できない住民のために、会員カードによる認証も可能とした。さらに、住民が特定の医師・健康アドバイザー（保健師・管理栄養士等）に対して自身の情報を開示できる機能も実装した。

２　運用結果

医師･健康アドバイザーへの情報開示機能を活用し、健康診断結果と日々のバイタルデータに基づいて健康アドバイザーがウェルネットリンク上で住民へアドバイスする「健康応援サービス」を開始した。同サービスを利用したモニター会員（4 名）に感想を聞いたところ、ウェルネットリンクへ登録し、アドバイスを貰った以降から健康への意識が高まり、また、生活習慣を改善するための工夫を各自で実施するようになってきた。

３　課題・改修の必要性

ウェルネットリンクでは、ログイン時に行う本人認証の手続きが煩雑となり、会員登録やログインがスムーズに行えない利用者が多かった。そのため、現状の安全性を維持しながらログイン時の手続きを少しでも簡略化することが今後の優先課題である。

４　その他

平成 22 年 3 月 31 日現在の会員数は 200 人であり、当初の計画よりも大幅に少ないことから、インターネットを活用できる世代を中心に個人情報を活用した新たなサービスを展開し、会員数の獲得を図る。